岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり

廣田川の改修碑その2

廣田川の水行については治水工事にも関わらず問題があったようである。一帯は平坦で、平均1/2,500という緩勾配である。近世以降の新田開発により水害に悩まされていた菱池でも、1883（明治16）年に愛知県が廣田川改修に着手し、菱池の干拓を行って50町歩余の土地を造成した。1885（明治18）年には廣田川の川底を6尺ほど切り下げ、1890（明治23）年には廣田川の上流から中島地内までの川底浚渫（しゅんせつ）が進められた。これらは菱池沼干拓・耕地化と絡んでのことであった。占部川や東部丘陵地から流下する諸川はすべて廣田川に悪水として集まってくるのは、地形からしてやむを得ないことである。従って、廣田川悪水処理は地域農民の死活問題として何百年間もわだかまってきた。これらの問題解決のための廣田川悪水普通水利組合の設立については、1910（明治43）年に設立総会まで開催したが、流域関係村の合意が得られず全域市町村を包括した組合の成立まで至らなかった。

1922（大正11）年の矢作古川の県営改修を契機に廣田川改修が再び議論され、豊坂村長らが音頭を取って、流域全市町村参加の組合結成を呼び掛けたが歳月を要し、1928（昭和3）年になってやっと廣田川悪水普通水利組合が発足した。これにより1928（昭和3）年から1932（昭和7）年にかけて改修が行われた。また、1944（昭和19）年12月の東海地震および1945（昭和20）年1月の三河地震により損傷を受けたので1952（昭和27）年より工事を開始し、11年の歳月を費やして、1962（昭和37）年11月に完工した。素戔嗚神社の近くに廣田川を改修した2つの記念碑（1933（昭和8）年、1963（昭和38）年建立）が立っている。1963（昭和38）年建立の記念碑は次のような内容である。

・廣田川改修碑その2（表面）

廣田川完工碑

広田川改修工事は別碑記載の如く昭和七年巨額の経費を投じて竣功し沿岸地
帯はこの恩恵に浴し農民は歡喜して農作物の増産に勵んでおりましたが、偶々
昭和十九年十二月の東海地震更らに昭和二十年一月の三河地震により本川一帯
は極めて不規則な地盤の変動を生じ上流部にては一米余の沈下を来し下流部に
おいては五十糎に達する隆起を見るなど異常な河状を呈するに至り、ひとたび
豪雨あれば沿岸耕地が一朝にして池沼となり農業経営の上にも水防上にも重大
なる影響を及ぼす、故に広田川地盤変動対策事業促進協議会を結成して地元民
の切実なる叫びを陳情したるところ桑原幹根愛知県知事を始め関係顕官の御理
解のもと國における地盤変動対策事業工事として採擇せられ、昭和二十七年度
に着工し矢作古川合流点より額田郡幸田町地内赤川合流点まで延長十六粁一〇
〇米に亘り計画流量上流部毎秒七二立米下流部毎秒一九〇立米の通水断面を與
へ総事業費三億二千七百萬円をもって隆起した河床の浚渫沈下した堤防の平均
六十糎の嵩上げ及び全延長に亘りコンクリート柵板又は石積低水護岸を施工し
た浚渫土量は三十六萬立米護岸コンクリート抗一萬二千本柵板三萬六千枚使
用し實に十一ヶ年の歳月を費やして昭和三十七年十一月完工の式を挙げるに至る
　ここにおいて沿岸民一同の悩みも遂に解消する故にこの大事業をなし遂げた恩
惠を永く忘れざるため広田川悪水土地改良区副碑を建て以て記念とする
昭和三十八年十月建立

勵：励、　糎：センチメートル、　粁：キロメートル、　亘：わた（る）、　與：与

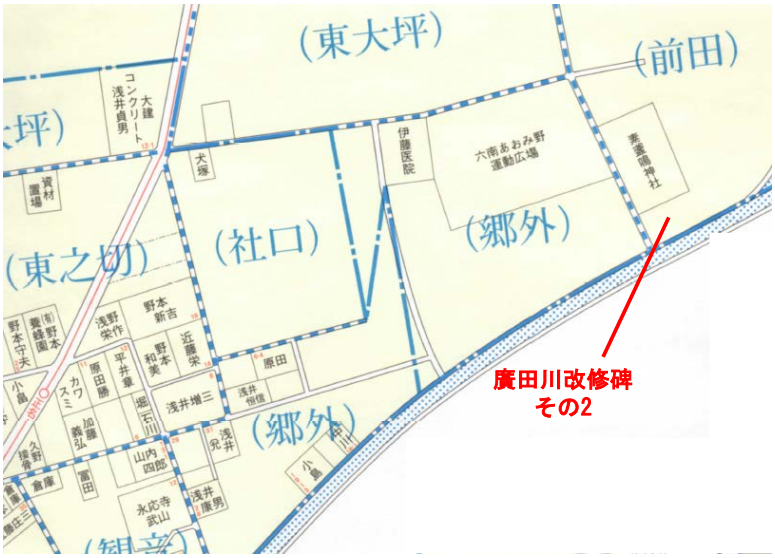
・廣田川改修碑その2（裏面）

広田川悪水土地改良

理事長	本多　蓑治	委員	小玉　五一	元理事	都築　忠吉
理事	柴田惣太郎	委員	本多　伴吉	元理事	青木　　保
理事	天野　計雄	委員	山本助次郎	元理事	齋藤　　保
理事	服部又一郎	委員	小嶋　春治	元理事	高村　直市
理事	成瀬　幸平	委員	高木増次郎	元理事	名倉光太郎
理事	石川　寄一	委員	加藤泰之助	元理事	太田　信胤
理事	齋藤仙次郎	委員	筒井庄五郎	元理事	成瀬　武雄
理事	八木　源松	委員	倉橋兼太郎	元監事	浅井　一馬
理事	酒井　　清	委員	岡安　欽一	元監事	岡安茂三郎
書記	本多　源吉	委員	小倉友治郎	元監事	加藤　春吉

広田川改修記念碑群 素戔嗚神社付近 20150725

1963（昭和38）年10月建立
20150725



本項は以下の資料を参照・引用している。

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]
著者：　渋谷　環
発行者：渋谷　環
発行日：2005（平成 17）年 9 月 19 日
印刷所：ブラザー印刷（株）
[六ッ美村誌]
編者：　六ッ美村是調査会
発行：　六ッ美村是調査会
発行日：1926（大正 15）年 12 月 1 日
発行所：日新堂書店
印刷所：活版印刷所